

[社 会]

生徒の学習意欲を高め、学習課題への理解を 深める学習活動の工夫

－中学校地理的分野 世界の諸地域「北アメリカ州」の場合－

丸山 信昭*

1 研究の目的

中学校学習指導要領の社会科では、既習事項を活用して、時代を大観し表現する力や、習得知識、概念、技能を基に社会的事象を説明・表現する力を高めることが求められている。そこで、授業では単なる知識の羅列に陥らないように、社会的事象と既習の知識・概念を関連付ける発問や学習活動を工夫することが必要になる。特に、地理的分野「世界の諸地域」の学習では、それぞれの州ごとに網羅的に細かく事実を学習するだけでなく、地域的特色や追究する学習テーマに関連する知識や概念を定着させ、さらにそれら知識や概念を関連付ける授業展開を工夫する必要がある。また、言語活動の充実の観点から、社会的事象の特色や社会的事象間の関連を捉えて、自分の考えを表現したり、他との意見交流を通して考えを練り上げたりする学習活動に取り組む必要がある。

2 研究の仮説

- (1) 社会科において、調査活動、発表などで他との意見交流や対話を基にした授業を意図的に取り入れることで、生徒の意欲的な学びを喚起できる。
- (2) また、発表ツールとしてのホワイトボードや付箋を用いたKJ法、ジグソー法などを活用することで、他との豊かな意見交流や対話を通して、学習内容への個々の考えや理解に深まりが見られる。

3 研究の内容・方法

(1) 研究テーマに迫るために

① 自己有用感を感じる学習活動の工夫

社会科が得意な生徒だけでなく、全員が学習活動に意欲的に参加し、授業で自己有用感を感じるができる学習活動を工夫する。例えば、付箋を用いたKJ法的な活動や、ジグソー法などを活用する。

② 社会的事象を大観する学習活動の工夫

社会的事象を大観するために、知識や概念を用いて表現する学習活動を行う。キャッチフレーズづくりの活動などキーワードを用いて学習内容をまとめる活動を意図的に行う。その際、既習の知識や概念、収集した情報を適切に活用して、関連付けながらまとめ上げることができるよう発問や、生徒の表現方法を工夫する。

③ 他との意見交流を通して考えを深める学習活動とワークシートの工夫

他と意見や考えを交流する学習活動を単元全体に意図的に配列して、その前後で自己の考えが広がり深まるようにする。そのために、自己の考えの変容が分かるようにワークシートを工夫する。

(2) 研究テーマにかかわる評価

① 授業後の、生徒の自己評価に次の項目を入れてそれぞれ肯定的評価が80%以上を目指す。

ア：話し合いや学び合いの活動で、自分の考えや集めた情報を仲間に伝えることができましたか。

イ：仲間との意見交流を通して、新たな発見があったり自分の考えが深まったりしましたか。

ウ：グラフやデータなど、諸資料の読み取りが仲間と協力しながらできましたか。

エ：授業を通して、北アメリカ州の産業の特色についてイメージがもてましたか。

② 生徒のワークシートの記述で、他との意見交流の前後で、自己の考えに新しい知識や概念が追加されて強化さ

* 妙高市立妙高中学校

れたり、既習事項と関連付けるなど考えに変容が見られたりするかどうかで評価する。

(3) 本単元の構成と位置づけ

① 単元名 「世界の諸地域 北アメリカ州」より小単元「アメリカ合衆国の農業・工業」

② 小単元の目標

北アメリカ州の地域的特色について関心を高め、アメリカ合衆国の産業（農業・工業）の発達とその背景について、分布図やグラフ等の諸資料から多面的・多角的に考察し、仲間との意見交流を通して、その特色をまとめることができる。

③ 単元展開の構想

本単元は「中学校学習指導要領（社会編）地理的分野，(1) 世界の様々な地域構成，ウ 世界の諸地域，(エ) 北アメリカ」を受けて設定した。この中項目の内容の取扱いでは、「州ごとに様々な面から地域的特色を大観させ、その上で主題を設けて地域的特色を理解させるようにすること」とある。それぞれの州の地域的特色を大観させるには、州規模で地域的特色を明らかにすることが大切である。また、生徒の関心と結び付きやすい主題を設定して追究していくことが必要となる。

北アメリカ州は、世界の超大国であるアメリカ合衆国を中心に生徒にとって身近な存在で、身の回りの衣・食・住はアメリカ合衆国の産業や文化が大きく関わっている。このアメリカ合衆国の発展する農業・工業の特色を追究することで、巨大な生産と消費の人々の生活様式が分かり、北アメリカ州の地域的特色の理解につながると考える。

小単元の1時間目では、ジグソー法を用いて資料分析と説明準備を行う。ジグソー法では、4人班の母集団で4つの資料を一人一役で分担し、課題別グループに分かれる。同じ分析資料を持ち寄った仲間資料分析を行い、説明原稿の作成や発表練習などを行う。資料の読み取りや発表が苦手な生徒であっても、課題別グループで協力しながら学習活動を進めることで全員が自分の役割を果たせるようする。小単元の2時間目では、アメリカ合衆国の農業の特色を示す資料について、一人一人が班の仲間分析結果を説明する。そして、班ごとに諸資料をもとにアメリカ合衆国の農業の特色をキャッチフレーズとしてまとめる。その際に、分析された諸資料を必ず根拠として用いながらキャッチフレーズとしてまとめることができるようにする。展開のまとめでは、班ごとの発表や個々で調べた内容をもとに、個人でアメリカ合衆国の農業の特色についてまとめる。そして、アメリカ合衆国の農業の特色について自分が立てた予想や考えが2時間の授業を通してどのように変容したのか見つけることができるようにする。

4 実践の概要

(1) 小単元計画（2時間）

時数	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
2時間	アメリカ合衆国の産業～広大な国土と工業化した農業～	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの大規模で合理的な農業の特色を諸資料から読み取る。 ・アメリカで多様な農産物が大量に生産できる理由を、気候や生産方法など様々な視点から考察し、他との意見の交流を通して考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸資料からアメリカの農業の特色について分析できる。【技能】（ワークシート） ・アメリカの農業の特色について、意見交流を通して考えを深めている。 <p>【思考・判断・表現】 （話し合い活動・ワークシート）</p>

(2) 単元（題材）と生徒（1年A組 男子17名 女子20名）

1年生は1学期の歴史学習において、KJ法を取り入れた学習活動を組織し、弥生時代や縄文時代の全体像を掴む授業を経験している。その学習活動では課題もあったが、社会科の得手不得手にかかわらず、全員が意欲的にグループ活動に参加しながら歴史的事象を大観することができた。

地理的分野では、「世界のすがた」や「世界各地の人々の生活と環境」を終え、学習テーマを追究する「世界の諸地域」の単元に入る。事前アンケートでは、24名が地理学習に対して肯定的な自己評価をした。意欲的で主体的な学びが継続するように、生徒の生活と結び付いた教材や資料を配列して、様々な社会的事象への興味・関

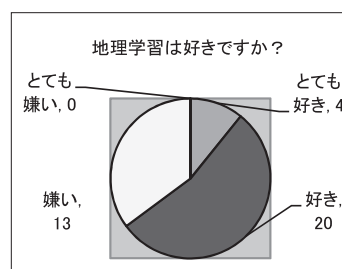


図1

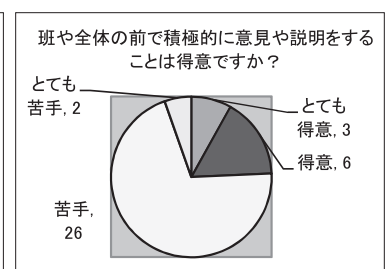


図2

心を高める工夫を図る。しかし、地理学習が嫌いな生徒も13名いることから、意欲を高めることができるような工夫も図る(図1)。また、事前アンケートでは、「班や全体の前で発表することは得意ですか」という問いに対して、28名の生徒が苦手意識をもっていることが分かる(図2)。生徒が互いにかかわり合いながら社会的事象についての見方や考え方を広げ深めていくためには、1年生から計画的に、発表や話し合いのスキルを身に付けていくことが必要となる。本単元では、班活動の場面で全員が発表や説明ができるように計画し、全員が発表や説明ができたという実感をもたせるようにしたい。さらに、地理学習のスキルとして、資料読み取りについて、23名が苦手意識をもっている(図3)。本単元では他との学び合いを通して、全員が資料の読み取りができるように工夫する。

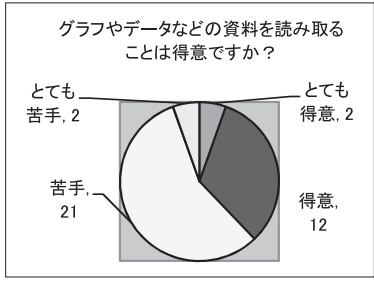


図3

(3) 本時の展開 (2/2)

① ねらい

アメリカ合衆国の農業の特色を、グラフやデータなどの諸資料を根拠として示しながら、キャッチフレーズとしてまとめることができる。

② 展開

時間(分)	学習活動	T:教師のはたらきかけ S:予想される生徒の反応	<input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 支援 <input type="checkbox"/> 留意点
導入 5分	○本時の学習内容と学習の流れを確認する。	T:アメリカ合衆国の農業の特色を示す資料をそれぞれ分析して、アメリカ合衆国の農業の特色をまとめよう。	○班員への説明の準備を確認する。
展開 35分	学習課題: アメリカ合衆国の農業の特色をキャッチフレーズで表そう!		
	○アメリカ合衆国の農業の特色を示す資料について、それぞれが分析してきたことを班の仲間に発表する。	T:前時で分析した資料について、それぞれ班の仲間に説明しよう。 S:~の資料から分かることは、気候に合わせた作物を作ることです。 S:~の資料から分かることは、日本と比べて、アメリカは農業従事者一人あたりの農地面積が広く、大型機械を用いていることです。	<input type="checkbox"/> 自分が分析した資料について、班の仲間に説明することができる。(説明) <input type="checkbox"/> ホワイトボードで班ごとにまとめる。
	○アメリカ合衆国の農業の特色を根拠(資料)をもとにキャッチフレーズで表す。	T:アメリカ合衆国の農業の特色を、根拠(資料)を明確に示しながら、キャッチフレーズで表現しよう。 S:アメリカ式!大規模農業! 根拠:広い土地と大型機械の写真や資料 S:気候とマッチ!アメリカ式農業! 根拠:気候図と農業分布図	<input type="checkbox"/> アメリカ合衆国の農業の特色について、話し合いながらキャッチフレーズにまとめることができる。(話し合い) <input type="checkbox"/> ホワイトボードを黒板に貼りながら発表する。
○それぞれの班のキャッチフレーズを全体に発表する。	T:それぞれの班の代表者が、班で考えたキャッチフレーズと根拠を全体に説明しなさい。		
まとめ 10分	○アメリカ合衆国の農業の特色について、班ごとの発表や、調べたことをもとに、自分の言葉でまとめる。	T:アメリカの農業について、班ごとの発表や調べ学習を通して分かったこと、考えたことをまとめよう。 S:地形や気候に合った作物を選んで栽培し、効率よく生産している。 S:大型機械で広い土地を耕作している大規模な農業である。	<input type="checkbox"/> アメリカ合衆国の農業の特色について調べた内容や班の発表を通して、自分の言葉でまとめている。(ワークシート)

③ 評価

- ・アメリカ合衆国の農業の特色を示す資料について、他に説明することができる。
- ・アメリカ合衆国の農業の特色について、キャッチフレーズづくりを通して自分の言葉でまとめることができる。

5 実践を振り返って

生徒は小単元の1時間目に課題別グループで十分に分析を行い、説明準備をしたので、2時間目では全員が自分の担当する資料を他者に説明することができた(写真1)。しかし、聞く側はメモをとることに意識が向きすぎたり、話す側は発表が棒読みになったりした生徒も少なからずいた。

また、キャッチフレーズづくりでは、班のメンバーで資料をもとに話し合いながら様々なキャッチフレーズを考えることができた。いずれも大きく的を外れているものがなく、概ね授業者が意図したものであった。しかし、課題として、資料とのつながりを明確にしながら全体に説明することで、個々の考えもより深まってくると感じた。各班のキャッチフレーズとその理由は以下のとおりである。



写真1

	キャッチフレーズ	理由
1班	適地適作で新しい品種も作り出す企業の農業アメリカ!	適地適作をして、バイオテクノロジーで新しい品種を作って企業の農業をしているから。
2班	良いこともあれば悪いこともあるアメリカ農業	広い土地でたくさん農業ができるけれど、塩害や地下水の減少などの問題も起きているから。
3班	人手は少なく大量生産!	大型機械で一気にやるし、人件費が少ないから。
4班	技術力を駆使した大規模で効率的なアメリカ農業!	機械を使って、広い土地で効率よく農業をしているから。
5班	大量生産の秘密はこれだ! 適地適作・大型機械・センターポット・バイオテクノロジー・これがアメリカ合衆国だ!	地域の気候を生かしたり、機械や畑の形を工夫したりして生産しているから。
6班	効率的で安く作れるアメリカの農業	大きな機械などを使って大規模に作っているから。
7班	アメリカの農業は大量生産で価格が安い	広い土地に大きな機械でたくさん作っているから。
8班	大規模だけれど効率的! アメリカ農業	低コストなのに大規模な農業でメリットも多いから。
9班	大量生産 頑張る! アメリカ農業	大量生産で世界が助かっているから。

なお、本小単元の実践前に、アメリカ合衆国の工業の特色を調べる学習で、同様にキャッチフレーズづくりの学習活動を行った。その際には、資料分析の場面でKJ法的な活動(写真2)を用いた。資料から気付くことを一人一人が付箋に書き、それを小グループで共有し、グルーピングやラベリングを行った。それらグルーピングしたものをつなぎ合わせて関係付けることで全体像をより深くつかみ取った班もあった。単元を通して、意図的・計画的に意見交流や対話のある学習活動を取り入れた意義は大きかった。

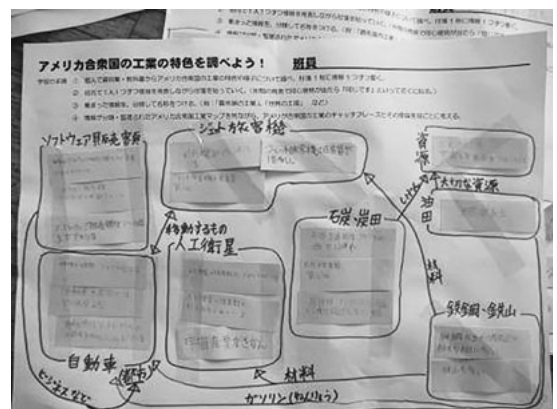


写真2

6 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

生徒の事後アンケートの集計結果では、いずれの項目も肯定的評価が80%以上を占め、本研究の目標は概ね達成できたといえる。事後アンケートではそれぞれの項目について、理由を記述させた。その記述内容の一部を以下に抜粋する。

ア) 話し合いや学び合い活動で、自分の考えや集めた情報を仲間に伝えることができましたか。(図4)

- ・自分の調べた情報を分かりやすく伝えられたから。
- ・資料分析でゆっくり大きい声で伝えられたし、付箋にたくさん情報を書けたから。

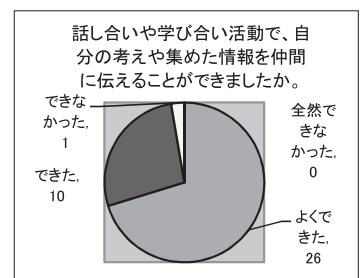


図4

イ) 仲間との意見交流を通して、新たな発見があったり、自分の考えが深まったりしましたか。(図5)

- ・話し合いでいろいろな発見があった。
- ・自分では思っていなかったことが、班の人と話し合っ、新しいことが分かったから。

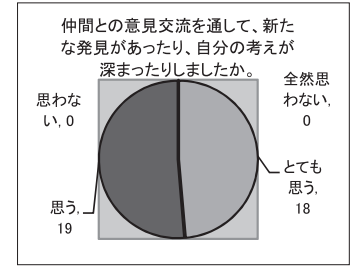


図5

ウ) グラフやデータなど諸資料の読み取りが仲間と協力しながらできましたか。(図6)

- ・私はあまり読み取りが好きではないけれど、他の人たちが教えてくれたから。
- ・分かるところを教えたり、分からないところを教えてもらったりして協力できたから。

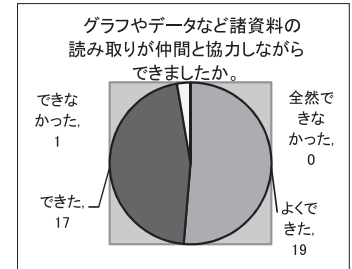


図6

エ) 授業を通して、北アメリカ州の産業の特色についてイメージがもてましたか。(図7)

- ・始めはアメリカのイメージはよく分からなかったけれど、今は聞かれたらすぐ答えられると思うから。
- ・たくさんの言葉やキーワードが出てきて、アメリカの農業の特色が最初よりもすぐ分かったから。

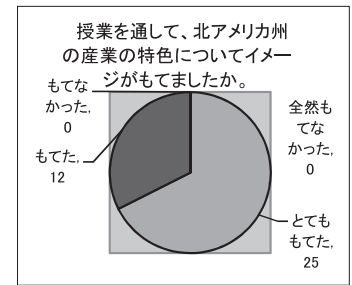


図7

～自由記述欄の記入～

- ・班でキャッチフレーズをつくる活動はすごくよいと思う。今回ならば、北アメリカ州の特色をしっかりと自分たちなりにまとめて覚えやすいから。また、他の班の発表を聞くと、知らなかったことや納得したりできて、とても楽しくおもしろかったです。
- ・ジグソー学習はとてもよかった。他の班の人と資料を見て、調べて、それを自分の班に戻って発表するのは仕事をしているみたいで楽しかったです。
- ・ジグソー学習がおもしろかった。普段と違う人と班をつくって一人一人が理解しなくてはいけないから、いつもよりしっかりと話し合いができた。資料をもとに話し合う活動が楽しかった。

また、生徒のワークシートの記述を見ると、授業の最初と授業の最後で多くの生徒に記述の変化が見られた。北アメリカ州については小学校でほとんど学習していないので、今ある知識やテレビなどで見聞きするイメージが授業の最初ではほとんどだった。しかし、授業後には資料等をもとに全員がアメリカ合衆国の農業の特色について考えを深めることができた。下記は生徒のワークシートの一部である。

	アメリカ合衆国の農業のイメージ (1時間目の導入での記述)	アメリカ合衆国の農業の特色をまとめよう。 (2時間目のまとめでの記述)
生徒A	広大な土地で機械を使って農業している。	大規模で大量生産。この裏には <u>少ない人手で機械を使う先進国であるというアメリカの技術も農業に生かされている</u> 。ただ大規模で機械というだけでなく、 <u>品種改良や畑の形、気候に適した作物など工夫も多く見られる</u> 。しかし、 <u>塩害や地下水の減少などの問題も起きている</u> 。
生徒B	国が広いからいろんな作物をたくさん育てている。	アメリカは広い土地だけれど、 <u>人手は少なくその土地の自然条件に合わせてつくる適地適作で、大量に作る企業的農業をしている</u> 。 <u>センターピボットのスプリンクラーで乾燥していてもこの灌漑を利用している</u> 。そして、 <u>フイードロットで牛を太らせたり、バイオテクノロジーで新しい品種を作っている</u> 。
生徒C	なんとなく大きい畑があって、たくさんの種類の穀物を育てていそう。	アメリカの農業が盛んなのは、 <u>大規模なのに人手が少なく、コストが低かったりするからだと思います</u> 。 <u>バイオテクノロジーを使うと病気に強い作物を作れたり、大量生産できることを初めて知りました</u> 。
生徒D	アメリカは都会のイメージで、農業のイメージはわからない。	アメリカは南北に広がっていて、 <u>面積が広い分、人手を少なくし、大型機械で一気にやっているし、センターピボットなど畑の形も工夫してやっているから農業が盛んだと分かった</u> 。

生徒Aは授業前から、アメリカ合衆国の農業の特色について教師側が意図するイメージをある程度もっていた。授業後にはさらにそれらを「品種改良」や「気候に合わせた作物」といったキーワードを用いて深め、広げることができた。また、アメリカ合衆国の農業の課題にも目を向けている。

生徒Bは単元の最初で学んだアメリカ合衆国の国土の広さをイメージしながら農業の特色を導き出している。授業後には、「適地適作」や「センターピボット」などの新しい語句を理解し、アメリカ合衆国の農業の特色についてイメージを膨らませることができた。生徒Cも同様に、授業の最初に比べると、単位面積あたりの農業人口の少なさに着目して考えを深めることができた。また、「バイオテクノロジー」などの新しい概念も獲得することができた。

生徒Dは、授業の最初ではアメリカ合衆国の農業の特色についてまったくイメージがもてなかった。このような生徒が実際には学級の半数以上を占めた。しかし、授業を通して新しい概念を獲得する中で、授業の終わりには自分なりの言葉でアメリカ合衆国の農業についてまとめることができた。もちろん、感想程度の記述にとどまる生徒も5人前後いたが、全体として授業を通して考えが深まったことを実感できたようであった。

このように、生徒の事後アンケートやワークシートの記述の変化など、本研究で意図した生徒の変容が見られた背景には、「キャッチフレーズ作り」、「ホワイトボードの活用」、「KJ法」や「ジグソー法」などの学習活動における手段が上手くかみ合い、大きな効果を発揮したことが考えられる。「キャッチフレーズ作り」では、生徒が意欲的に学習活動に取り組むだけでなく、話し合いの視点を焦点化させることができる活動であった。また、「ホワイトボードの活用」によって、話し合いの内容をスムーズにまとめることがどの小集団でも可能となった。「KJ法」や「ジグソー法」を取り入れることが、全員が学習活動に主体的に参加している実感につながった。「KJ法」では、カテゴリーされた事象をつなぎ合わせて関連付けたりするなど回数を重ねるごとにスキルアップする姿が見られた。「ジグソー法」では、全員で一つの社会的事象（授業ではアメリカ合衆国の農業の特色）を導き出す達成感を感じることもできたようであった。これらの学習方法を組み合わせることで、生徒の思考力や判断力を高めることが大いに期待できることが実証されたことは、本研究における成果であった。

また、本研究をもとに平成27年度に3年生公民的分野の小単元「情報化社会」で追試を行った。ここでは、インターネットの長所と短所について付箋を用いたKJ法的な活動でまとめ、情報化社会を生きる力をキャッチフレーズで表現する活動を行った。付箋を用いることで、一人一人に書く活動、発表する機会が確保され、生徒は学習への意欲や達成感が高まった。また、KJ法を用いることで情報化社会の特色を様々な観点から概観することができた。

この小単元でも、授業前後に本研究と同じアンケートを生徒に行ったが、生徒はいずれも概ね肯定的な評価であった。このことから、教師主導の講義型の授業から、生徒主体の意見交流や対話をもとにした授業を模索していくことは、生徒の豊かな学びにつながることを検証された。

(2) 今後の課題

本研究において、分析した資料を各自が他に説明するという学習活動は全員が達成することができた。しかし、一方的な説明にとどまる生徒が多く、質問を交換するなどの対話の場面が少なかった。また、個の考えや個の活動が授業の場面に見えることが少なかったため、付箋を活用したKJ法的な学習活動に比べると自己有用感や達成感が低いことが考えられる。研究テーマでもある思考力や判断力、表現力を高めるためには、「教え合い」から、言語活動のスキルを向上させ、さらに一歩進んだ「学び合い」に高めていく必要がある。ただ、短期間で生徒のスキルは向上するものではないため、今後も、意見交流や対話のある学習活動を様々な単元で計画的に取り入れることで、生徒のスキルが高まり、より集団や個々の考えが深まったり、表現が豊かになったりしていくと考える。このような意見交流型、対話型または学び合いと呼ばれるような学習活動の捉えや形態の工夫など、まだまだ課題も多いが、教師主体の知識伝達型の授業に比べると、これらの授業は生徒の学習意欲を高める効果が大きいと期待できる。このような意見を活発に交流できる学習形態を今後も自己の研究課題として追究していきたい。

【参考文献】

- ・文部科学省「中学校学習指導要領」平成20年3月
- ・全国社会科教育学会編著「優れた社会科授業の基盤研究Ⅱ 中学校・高校の“優れた社会科授業の条件”」明治図書2007年